

平成18年度 三番瀬再生事業の実施結果の概要について

事業計画の節・事業名 県予算事業名及び予算	事業の概要、結果及び評価		担当課等
1 干潟・浅海域 干潟的環境（干出域等）形成の検討・試験 淡水導入の検討・試験 三番瀬再生実現化検討事業 当初予算額 12,000 千円 決算見込額 11,482 千円	目的・概要	三番瀬の再生の重要なテーマである「干潟的環境形成」、「淡水導入」及び「湿地再生」の事業の進め方を検討するため、全国の事例を収集し、事業実施上の課題等を整理するとともに、「干潟的環境形成」及び「淡水導入」については、試験案を検討します。	（庁内検討グループ） 企画調整課 環境政策課 水質保全課 自然保護課 水産課 漁業資源課 漁港課 都市計画課 河川整備課 河川環境課 港湾課 公園緑地課 下水道課 別途説明
実施結果	1 庁内検討グループ検討会を5回開催しました。検討会には必要に応じ学識経験者の参画を求めました。 2 「干潟的環境形成の検討・試験」、「淡水導入の検討・試験」について、次の調査を実施しました。 (1)事例の収集及び課題の整理 (2)期待される機能 (3)試験(案)の検討 等		
結果の評価	干潟的環境形成及び淡水導入に向け、必要な試験の実施に向けた条件を整理することができました。		
住民参加・情報公開の状況			
問題点・今後の課題、改善の方向等	試験実施に当たっては、順応的な管理により進めていく必要があります。 平成19年度に実施する三番瀬再生実現化推進事業においては、検討段階に応じて公開により学識経験者等の意見を聴きながら進めていくこととします。 また、具体的な試験計画及びモニタリング計画の検討、事前環境調査等を行います。		
2 生態系・鳥類 行徳湿地再整備事業 行徳湿地再整備事業 当初予算額 36,110 千円 決算見込額 29,389 千円	目的・概要	行徳湿地を、三番瀬の後背湿地の機能を有する汽水域の場所として整備するため、三番瀬との海水交換促進による干出域の拡大や淡水導入促進による汽水域化をめざし、整備内容を検討するための調査を実施するとともに、行徳内陸性湿地再整備検討協議会（学識経験者、NPO、市川市、県関係機関等による検討組織）において、具体的な検討を行います。 また、市川市、NPOなど関係者との協働による維持管理等を実施します。	環境生活部 自然保護課 別途説明
実施結果	1 湿地内施設整備調査 ・導流堤整備調査 ・淡水導入影響調査（夏季） ・深みの埋め戻し調査 2 行徳内陸性湿地再整備検討協議会の開催 2回 3 湿地環境維持管理		
結果の評価	施設整備に向けた調査を進めるとともに、整備内容に係る検討会を開催し、今後の調査課題を明らかにしました。また、水環境等の維持管理を行った結果、湿地環境を大きく悪化することなく維持しました。		
住民参加・情報公開の状況	行徳内陸性湿地再整備検討協議会において、公開で整備内容等について検討しました。 協議会の協議結果を県ホームページに掲載しました。		
問題点・今後の課題、改善の方向等	水門や水路等の海水交換・淡水導入促進施設の整備や貧酸素水域の解消のための深みの埋め戻し等の整備を順応的な管理により具体化していくため、これまでの調査結果を踏まえ、湿地環境への総合的な影響評価を実施する必要があります。 施設整備による湿地の水環境、生物環境等への影響評価を行うための調査を進めます。		

事業計画の節・事業名 県予算事業名及び予算	事業の概要、結果及び評価		担当課等
<p>2 生態系・鳥類 三番瀬自然環境調査事業</p> <p>三番瀬自然環境調査事業</p> <p>当初予算額 50,000 千円 決算見込額 24,891 千円</p>	<p>目的・概要</p> <p>実施結果</p> <p>結果の評価</p> <p>住民参加・情報公開の状況</p> <p>問題点・今後の課題、改善の方向等</p>	<p>中長期の変動を含めた三番瀬の生態系を把握するために、生物とそれを取り巻く環境について、定期的な調査を行っていきます。</p> <p>1 底質調査 三番瀬海域における 100 地点の四季において、底泥を採取し、粒度組成、強熱減量、酸化還元電位等の調査を実施しました。</p> <p>2 底生生物調査 三番瀬海域における 100 地点の四季において、底泥を採取し、底生生物の種の同定、個体数及び湿重量を調査しました。</p> <p>3 干潟干出域カニ類等生息状況調査 干潮時に、干出した範囲において干潟表面でみられるカニ類等の生息状況について目視により調査しました。</p> <p>4 過去の調査との比較 過去に実施した調査結果との比較により、底質及び底生生物の生息状況の変遷を把握しました。</p> <p>本調査の実施により、三番瀬の全体の自然環境の把握に向け、底質及び底生生物等の現状を把握することができました。</p> <p>調査方法等については、公開で開催した三番瀬評価委員会において審議され、その結果は県ホームページに掲載しました。 また、調査結果については、三番瀬自然環境データベースに登録し、広く公開していきます。</p> <p>得られた調査結果をもとに、自然環境の変動を評価するとともに、順応的な管理による再生事業の実施に役立てるようする必要があります。 19 年度は、引き続き自然環境調査を実施します。</p>	<p>環境生活部 自然保護課</p> <p>別途説明</p>
<p>3 漁業 豊かな漁場への改善方法の検討</p> <p>三番瀬漁場改善検討事業</p> <p>当初予算額 7,000 千円 決算見込額 6,983 千円</p>	<p>目的・概要</p> <p>実施結果</p> <p>結果の評価</p> <p>住民参加・情報公開の状況</p> <p>問題点・今後の課題、改善の方向等</p>	<p>三番瀬漁場再生検討委員会での検討を基に、現状の三番瀬の漁場環境を整理・再現した「漁場特性マップ」を平成 18 年度から 19 年度の 2 カ年で作成し、漁業生産と漁場環境との関係を整理し、その結果を基に、漁業者から強く要望されている潮の流れの改善等、漁場再生の具体化に向けた検討を行います。</p> <p>1 三番瀬漁場特性マップの作成 (1) 漁場環境データの整理・パソコンへの入力 ・水深（昭和 55 年～平成 15 年）のデータ入力 ・底質、海藻類のデータ入力 ・昭和 55 年と平成 15 年の秋季について、シミュレーションによる流況の再現 (2) ノリ養殖業（市川側漁場）・アサリ漁業の年度別生産経過等のパソコンへの入力</p> <p>2 漁業と漁場との関係解析 漁業と漁場環境との関係をできるだけ定量的に解析し、生産者が実感する区域区分との関係を考察した。</p> <p>平成 18 年に実施予定であったパソコンへの漁場環境データの inputs は完了し、シミュレーションによる三番瀬の流況再現は高い再現性が得られ、期待した成果が得られました。 また、漁場環境データ等の表示システムが完成し、今後の検討の基礎を構築することができました。</p> <p>三番瀬漁場再生検討委員会を公開で開催しました。 また、委員会の審議内容、資料等を県ホームページに掲載しました。</p> <p>この「漁場特性マップ」の情報が、今後の具体的な漁場再生手法の検討の基礎となるため、今後の「漁場特性マップ」の完成に向けては、三番瀬漁場再生検討委員会での緊密な意見交換等、十分な検討が必要です。 19 年度は、未入力のデータを整理・入力するとともに、流況再現季節を追加して「漁場特性マップ」を完成させ、その情報をもとに具体的な漁場再生手法について、三番瀬漁場再生検討委員会において抽出・検討していきます。</p>	<p>農林水産部 水産局 水産課</p>

事業計画の節・事業名 県予算事業名及び予算	事業の概要、結果及び評価		担当課等
<p>3 漁業 アオサ対策</p> <p>三番瀬漁場再生調査事業</p> <p>当初予算額 3,341 千円 決算見込額 3,341 千円</p>	目的・概要	<p>大量に発生したアオサは堆積・腐敗して、三番瀬の漁場環境に悪影響を及ぼすことから、アオサを効率的に回収する方法を早急に確立する必要があります。このため、漁業者と連携してアオサの発生量を継続的に把握するとともに、自走式潜水トラクターによる回収の実用化を進めます。また、アオサ対策に関する事例収集等を行い、有効利用を含めた処理方法の確立を目指します。</p>	農林水産部 水産局 漁業資源課
実施結果	<p>1 発生量調査 6回実施。 2 回収試験 8月と11月(公開)に回収試験を実施し、最大で0.5トン/分のアオサが回収でき、実用化の目途がたつた。 3 処理方法・有効利用策の検討 地元市等及び関係機関と処理や有効利用策について検討</p>		
結果の評価	<p>三番瀬の漁場や水質の悪化を招くアオサを効率的に回収する方法として、自走式潜水トラクターは有効と考えられます。</p>		
住民参加・情報公開の状況	<p>三番瀬漁場再生検討委員会を公開で開催しました。 また、委員会の審議内容、資料等を県ホームページに掲載しました。</p>		
問題点・今後の課題、改善の方向等	<p>アオサのモニタリングは継続実施することが必要です。また、アオサ回収システム導入及び回収されたアオサの処理についてはコスト等の課題があります。 19年度は県漁連が自走式潜水トラクター1台及び回収装置を導入することに対し、「三番瀬漁場再生事業」で助成していきます。</p>		
<p>3 漁業 藻場の造成試験</p> <p>三番瀬漁場再生調査事業</p> <p>当初予算額 2,560 千円 決算見込額 2,410 千円</p>	目的・概要	<p>これまでの藻場造成の結果から、現在の三番瀬ではアマモの越夏は困難と推定されますが、一部の海域ではアマモの生育に適した箇所も確認されました。このため、それらの海域において、漁業者と連携してモニタリング調査を行いながら藻場造成を試行します。併せて、造成箇所において魚介類の産卵状況や幼稚魚の生息状況等の調査を行い、藻場の持つ機能について評価検証を行います。このほか陸上水槽においてアマモ移植株の育成を行います。</p>	農林水産部 水産局 漁業資源課
実施結果	<p>1 漁業者と連携した藻場造成 10月21日に市川側と船橋側の2か所(各250本)で実施 2 モニタリング 19年1月31日に実施したところ、市川側で1,035本、船橋側で1,680本に増加していた。 3 産卵・生息状況調査 平成17年度の造成試験区で6月12日と7月10日実施し、造成区でハゼやメバル稚魚、コウイカの卵塊等を確認した。 4 人工栽培試験 前年秋から陸上水槽に682株を移植したところ、5月には花枝を採取し、約500個の種子を得た。また株は11月現在1,150本に増加している。</p>		
結果の評価	<p>アマモの持つ機能の一つとして、水中の窒素等を吸収することから、アマモ場があることにより、水質改善に役立つと考えられます。また、イカ類の産卵や稚魚育成場及び底生生物を比較したところ、藻場があることにより資源の増大に有効であると考えられました。</p>		
住民参加・情報公開の状況	<p>三番瀬漁場再生検討委員会を公開で開催しました。 また、委員会の審議内容、資料等を県ホームページに掲載しました。</p>		
問題点・今後の課題、改善の方向等	<p>これまでの調査から、三番瀬では夏季には適水温の限界とされる28以上の高水温化や透明度不足が継続することや、シールズ数調査から適地は概ね3か所に限定されることが判っています。したがって、アマモが越夏する可能性を確認していく必要があります。 今後、人工栽培による株や種子による移植試験や播種を行うことにより、アマモの越夏と再生産の可能性を確認していきます。</p>		

事業計画の節・事業名 県予算事業名及び予算	事業の概要、結果及び評価		担当課等
<p>3 漁業 ノリ養殖管理技術の改善 高水温耐性ノリ品種の改良</p> <p>ノリ生産管理技術システム化試験事業 東京湾全体を対象 当初予算額 999 千円 決算見込額 999 千円</p> <p>高水温耐性ノリ品種改良事業 東京湾全体を対象 当初予算額 13,832 千円 決算見込額 13,832 千円</p>	<p>目的・概要</p> <p>実施結果</p> <p>結果の評価</p> <p>住民参加・情報公開の状況</p> <p>問題点・今後の課題、改善の方向等</p>	<p>三番瀬におけるノリ養殖は、漁場環境が不安定で疾病による生産阻害が著しいなど、厳しい生産状況に置かれており、現場での巡回・技術指導等を継続して、漁場の変化を的確に把握し、漁場特性に対応した漁場行使やノリ網の管理等、ノリ養殖管理技術の改善・普及を進めます。</p> <p>また、近年、海水温の上昇により、三番瀬をはじめとする東京湾のノリの主要産地では、生産枚数の減少や品質低下により打撃を受けており、漁業者と連携し、高水温下での養殖を可能とする新しいノリ養殖品種の品種改良を進めます。</p> <p>技術現地指導（周年）や研修会（7月）の実施、及びノリ芽健全度情報やノリ養殖通報等の提供を行った。県内養殖場及び県外から高水温耐性優良株を収集し、有望な3株を大量培養した。</p> <p>技術指導や情報提供により現場の技術向上、及び高水温耐性品種の作出に資することができました。</p> <p>三番瀬漁場再生検討委員会を公開で開催しました。また、委員会の審議内容、資料等を県ホームページに掲載しました。</p> <p>近年のノリ生育不良の原因には温暖化など大きな環境変動が背景にあることから、現場における養殖技術だけでは対応しきれないことがあり、環境情報を収集し、生育不良や病害発生との関連性を調査するなど、実施可能な対処法を検討していきます。</p> <p>早期に品種改良を目指す必要があり、これまで得られた有望な3株を大量培養し、漁場での試験養殖を実施します。</p>	<p>農林水産部 水産局 漁業資源課</p>
<p>3 漁業 アサリ生産対策</p> <p>三番瀬漁場再生調査事業</p> <p>当初予算額 209 千円 決算見込額 209 千円</p> <p>生産管理対策事業</p> <p>当初予算額 3,750 千円 決算見込額 3,750 千円</p>	<p>目的・概要</p> <p>実施結果</p> <p>結果の評価</p> <p>住民参加・情報公開の状況</p> <p>問題点・今後の課題、改善の方向等</p>	<p>三番瀬では、アサリ資源の減少傾向が続いており、早急な資源の維持・増大策の実行が求められています。このため、アサリ資源の減少防止対策のひとつとして考えられる冬季の波浪抑制技術の導入について、これまで行ってきた調査データの解析結果をもとに、順応的管理による具体的事業の展開を目指すとともに、アサリ稚貝を傷めず効率よく回収し、適地に移植する方法の開発を進め、漁場生産力の利用・活用に努めます。</p> <p>また、一部の海域では密漁によるアサリ資源への影響が懸念されることから、漁業者による適切な漁場管理を支援するなど、秩序ある漁場利用を図ります。</p> <p>1 波浪抑制減衰手法の具体的な準備・情報収集 2 稚貝採取機の改良試験及び実証試験実施 3 漁場管理対策巡回指導及び看板設置</p> <p>現実的な波浪抑制試験の方向性を決めたほか、アサリ稚貝採取システムの仕様が概ね固まるなど、漁場生産力の効果的な利活用に資することができました。</p> <p>また、漁業者による適切な漁場管理の支援を実施し、秩序ある漁場利用を図りました。</p> <p>三番瀬漁場再生検討委員会を公開で開催しました。また、委員会の審議内容、資料等を県ホームページに掲載しました。</p> <p>波浪抑制試験の実施期間がノリ漁期と重なるため、ノリ漁業に影響を与えないように試験区の設定について考慮する必要があります。また、波浪抑制による冬期減耗対策の事業化時の導入経費が多額となるため、業界だけで対応することは困難です。</p> <p>アサリ稚貝採取システム導入経費が多額となるため、業界だけで対応することは困難です。</p> <p>漁業者による適切な漁場管理の効果を上げるためには、行政の支援が必要不可欠です。</p> <p>今後、三番瀬漁場の特性を十分考慮した上で、ノリ漁業者とも連携し事業実施していきます。</p> <p>また、漁業者による適切な漁場管理について、支援を継続していきます。</p>	<p>農林水産部 水産局 漁業資源課</p>

事業計画の節・事業名 県予算事業名及び予算	事業の概要、結果及び評価		担当課等
<p>5 海と陸との連続性・護岸 市川市塩浜護岸改修事業</p> <p>海岸高潮対策事業</p> <p>当初予算額 260,000 千円 決算見込額 258,000 千円</p>	目的・概要	老朽化が著しい2丁目地先の護岸について、早急に護岸の安全性を確保するとともに、海と陸との連続性を取り戻すことが必要であるため、生態系にも配慮した高潮防護の護岸改修を進めます。	<p>県土整備部 河川整備課</p> <p>別途説明</p>
実施結果	<p>1 工事 石積緩傾斜堤護岸 L=100m(完成形 L=20m)</p> <p>2 調査 モニタリング調査3回実施</p> <p>3 評価・検討 順応的管理手法に基づき実施</p>	別途説明	
結果の評価	工事及びモニタリング調査については、当初予定した内容の工事・調査を実施し、順応的管理手法に基づく検証の結果、良好な結果が確認されていますが、より良い工夫を施した構造により次年度工事を進めることとします。		
住民参加・情報公開の状況	事業を進めるに当たっては、公開を原則とする市川海岸塩浜地区護岸検討委員会、視察会・公開調査等を通じ実施計画を定め、これに基づき工事を実施しています。 委員会を初めとする住民参加の会議・イベント等については、事前事後の情報提供を県ホームページ上で実施しています。		
問題点・今後の課題、改善の方向等	護岸整備を進めるに当たり、後背地の街づくり計画と護岸改修との整合を図ることが求められますが、護岸改修が街づくり計画に先行する工程であるため、整合の確保には難しい面もあります。 今後、塩浜地区の街づくり計画を所掌する市川市と情報交換を密にし、より良い護岸構造の工夫に努めます。		
<p>5 海と陸との連続性・護岸 自然再生（湿地再生）事業</p> <p>三番瀬再生実現化検討事業【再掲】</p> <p>当初予算額 12,000 千円 決算見込額 11,482 千円</p>	目的・概要	三番瀬の再生の重要なテーマである「干潟的環境形成」、「淡水導入」及び「湿地再生」の事業の進め方を検討するため、全国の事例を収集し、事業実施上の課題等を整理するとともに、「干潟的環境形成」及び「淡水導入」については、試験案を検討します。	<p>(庁内検討グループ) 企画調整課 環境政策課 水質保全課 自然保護課 水産課 漁業資源課 漁港課 都市計画課 河川整備課 河川環境課 港湾課 公園緑地課 下水道課 別途説明</p>
実施結果	<p>1 庁内検討グループ検討会を5回開催しました。検討会には必要に応じ学識経験者の参画を求めました。</p> <p>2 「自然再生（湿地再生）事業」について、次の調査を実施しました。</p> <p>(1)事例の収集及び課題の整理 (2)期待される機能、必要な条件等</p>		
結果の評価	湿地再生に向け、期待される機能・効果や必要な条件を整理することができました。		
住民参加・情報公開の状況			
問題点・今後の課題、改善の方向等	塩浜護岸改修、地元市のまちづくり等との調整を図りながら、進めていく必要があります。 平成19年度に実施する三番瀬再生実現化推進事業においては、検討段階に応じて公開により学識経験者等の意見を聴きながら進めていくこととします。 また、地元市をはじめとする関係機関と調整しながら、湿地環境、規模、構造等を検討します。	別途説明	

事業計画の節・事業名 県予算事業名及び予算	事業の概要、結果及び評価		担当課等
<p>8 環境学習・教育 環境学習・教育事業</p> <p>三番瀬再生に係る環境 学習検討事業</p> <p>当初予算額 2,532 千円 決算見込額 997 千円</p>	目的・概要	<p>三番瀬における環境学習のあり方、環境学習のための人材の確保・育成、環境学習のための施設や場の提供などについて、住民、学識経験者、行政など多様な主体で構成する検討委員会を設置し検討を行います。</p>	環境生活部 環境政策課
実施結果	<p>1 三番瀬環境学習施設等検討委員会 6回開催 (検討結果を取りまとめのうえ、委員会18年度報告書として県に提出)</p> <p>2 環境学習関連施設等視察会 2回開催</p>		
結果の評価	<p>三番瀬で活動しているNPOへのヒアリング、アンケート、環境学習関連施設の視察などを実施し、その結果をもとに委員会において、環境学習プログラム、人材の育成・確保、環境学習施設・場のあり方の3つの観点から環境学習の現状を分析するとともに、課題の抽出を行いました。</p>		
住民参加・情報公開の状況	<p>検討委員会では、地元住民も委員として参加しているほか、会議では傍聴者が意見を述べる機会を設けるよう配慮しました。 検討委員会はすべて公開で開催しました。また、会議の議事録や配付資料については、県ホームページに掲載しました。</p>		
問題点・今後の課題、改善の方向等	<p>県だけではなく地元市・学校・NPO・地元住民等多様な主体が連携・協働しながら地域全体で取り組んでいくための連携・協力体制の構築が必要です。 また、18年度までの検討で環境学習を推進するための基本的な課題が示されたことから、19年度は示された課題の解決に向けた具体的な検討を行います。</p>		
<p>9 維持・管理 三番瀬自然環境合同調査実施事業</p> <p>三番瀬自然環境合同 調査実施事業</p> <p>当初予算額 300 千円 決算見込額 139 千円</p>	目的・概要	<p>三番瀬の再生に、多くの人々が参加し、計画の目的や手法を共有していく仕組みの一環として、一般からの参加を募って、三番瀬の自然環境に関する合同調査を実施します。</p>	環境生活部 自然保護課
実施結果	<p>底生生物について、継続的な調査を2回実施し、それぞれの調査において、事前勉強会、現地調査、ソーティング・同定作業を行いました。</p>		
結果の評価	<p>調査を通じて、三番瀬の底生生物や自然環境への理解を深めることができました。</p>		
住民参加・情報公開の状況	<p>平成17年度に公募した参加者が、継続して調査に参加しました。</p>		
問題点・今後の課題、改善の方向等	<p>現地調査は少人数グループ分けし、グループ毎に指導員を配置の上実施するが、多くの県民に参加いただくには、指導員を確保する必要があります。 また、三番瀬の再生に向けた基礎データとするため、収集したデータの分析等を行い、取りまとめを行う必要があります。 今後、指導員を確保するため、専門団体、NPO等との協働・連携を検討します。また、収集したデータの報告書を取りまとめます。</p>		

事業計画の節・事業名 県予算事業名及び予算	事業の概要、結果及び評価		担当課等
<p>9 維持・管理 三番瀬自然環境データベース構築事業</p> <p>三番瀬自然環境データベース維持事業</p> <p>当初予算額 1,022 千円 決算見込額 1,082 千円</p>	<p>目的・概要</p>	<p>三番瀬の再生に当たっては、三番瀬の環境の現況や推移を的確に把握するとともに、再生事業の実施に係る順応的な管理を行う必要があります。 このため、これまでに実施された自然環境に関する調査結果の効率的な活用を目的としてデータベースを構築します。</p>	<p>環境生活部 自然保護課</p>
<p>実施結果</p>	<p>1 データベースの更新 ・物質循環モデル等基礎調査（平成8年度）のデータを追加しました。 ・グラフ機能の改良を行いました。 ・更新後のデータベースの内容で、ホームページを作成しました。 2 データベースの設置 ・文書館、環境研究センター及び中央博物館に設置しました。</p>		
<p>結果の評価</p>	<p>三番瀬自然環境データベースの設置により、三番瀬の自然環境に関する調査結果をより効率的に活用することができるようになりました。</p>		
<p>住民参加・情報公開の状況</p>	<p>データベースの設置、県民等の利用方法についてホームページに掲載するとともに、報道各社へ資料提供しました。</p>		
<p>問題点・今後の課題、改善の方向等</p>	<p>データベースの利用状況によっては、ホームページで利用できる形態に再構築する必要があります。 また、利用状況の把握を行います。</p>		
<p>1 1 広報 インターネットなどによる情報発信</p> <p>三番瀬ライブカメラ設置・運営事業等</p> <p>当初予算額 1,480 千円 決算見込額 1,412 千円</p>	<p>目的・概要</p>	<p>三番瀬の再生に対する関心と理解を深め、幅広い県民の理解と協力を得るため、三番瀬に関する各種情報や再生に向けた様々な取組について、県ホームページ等各種媒体を利用して最新の情報やライブカメラからの映像を継続的に発信します。</p>	
<p>実施結果</p>	<p>1 ホームページの更新（通年・随時） ・三番瀬トップページのリニューアル（5月8日） ・三番瀬フォトギャラリー開設（7月3日）ほか随時更新 2 三番瀬ライブカメラの保守・点検（通年） 3 三番瀬パンフレットの作成</p>		
<p>結果の評価</p>	<p>最新情報を遅滞なくホームページに掲載しました。 また、18年3月に設置したライブカメラ等により、ホームページのアクセス件数は前年度よりも大幅に増加し、三番瀬への関心を高める効果がありました。</p>		
<p>住民参加・情報公開の状況</p>	<p>県民等が実施する三番瀬に関するイベント等の情報については、連絡いただければ掲載することとなっています。また、最新情報は遅滞なくホームページに掲載しました。</p>		
<p>問題点・今後の課題、改善の方向等</p>	<p>県民から見てさらにわかりやすいホームページの作成に努めます。また、外国の方々にも三番瀬の情報を発信するため、英語のホームページを作成します。</p>		

事業計画の節・事業名 県予算事業名及び予算	事業の概要、結果及び評価		担当課等
<p>1 1 広報 広報拠点活用事業</p> <p>サテライトオフィス運営委託事業</p> <p>当初予算額 6,641 千円 決算見込額 6,641 千円</p>	目的・概要	<p>三番瀬再生会議や三番瀬の自然環境等に関する資料の展示・閲覧等により、広く県民に情報提供を行い、その関心と理解を深めることを目的として設置しており、県民参加による再生の取り組みの一環としてその運営をNPO法人に委託して実施しています。</p>	総合企画部 企画調整課
実施結果	<p>三番瀬サテライトオフィスの運営をNPO法人への委託により実施しました。</p> <p>ホームページによる三番瀬サテライトオフィスの広報・PRに努めるとともに、NPO法人を通じた各種資料の展示・閲覧・説明、各種ビデオの備え付け・視聴等により魅力ある運営に努めました。</p> <p>三番瀬サテライトオフィスへの訪問者数は、17年度7,915人から18年度9,497人と約16.7%増加しており、年々増加傾向にあります。</p>		
結果の評価	<p>三番瀬サテライトオフィスへの訪問者数も増加傾向にあり、広報事業として一定の成果を挙げました。</p>		
住民参加・情報公開の状況	<p>曜日毎に各NPO法人が運営しています。また、月に1回、各NPO法人の代表が集い、サテライトオフィス運営会議を実施し、情報共有・意見交換等を行いました。</p> <p>また、県ホームページに「千葉県三番瀬サテライトオフィス」の施設紹介を掲載しました。</p>		
問題点・今後の課題、改善の方向等	<p>運営委託先であるNPO法人と千葉県との間で事業運営上の話し合いの機会を多く持ち、互いの違いや特性を生かしあいながら、よりよいパートナーシップを一層構築していく必要があります。</p> <p>月に1回実施しているサテライトオフィス運営会議で、事業に対する目的意識を深めつつ、よりよいパートナーシップを一層構築していきます。</p>		
<p>1 1 広報 三番瀬フェスタ開催事業</p> <p>三番瀬再生推進事業</p> <p>当初予算額 2,800 千円 決算見込額 2,800 千円</p>	目的・概要	<p>三番瀬の状況を多くの方に紹介し、再生への理解と参加を促すため、住民やNPO等が中心となって運営する三番瀬フェスタを開催します。</p>	総合企画部 企画調整課
実施結果	<p>1 「感じよう！三番瀬『三番瀬フェスタ2006 市川塩浜』」(8月19日、参加者2,000人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シーサイドライブ ・三番瀬八ぜつり会 等 <p>船での三番瀬視察会併催(8月26日)</p> <p>2 三番瀬フェスタPART2『本音で語る！三番瀬』～私にとっての三番瀬～(10月28日、参加者100人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者による意見表明・意見交換 等 <p>3 三番瀬SANBANZE展(19年1月30日～2月4日、延べ500人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三番瀬関係写真展 等 		
結果の評価	<p>屋外イベント、屋内討論会、写真展という複数の事業を、内容のバランスに配慮し企画・実施したものであり、屋外イベントにあっては、多数の地元児童・生徒の参加を得るなど、広報事業として一定の成果を挙げました。</p>		
住民参加・情報公開の状況	<p>地元住民・NPOの企画・立案・運営により実施しました。また、屋外イベントについては多くの集客がありました。</p> <p>随時、県ホームページで情報を公開しました。また、事業実施について県広報紙等各種媒体を利用し広報を行いました。</p>		
問題点・今後の課題、改善の方向等	<p>広報事業として一般県民の幅広い参加が得られる企画を検討する必要があります。また、住民・NPOの自主性が尊重される事業手法を検討する必要があります。</p> <p>19年度においては、住民・NPOの自主性を最大限尊重するため、住民・NPOの実施する三番瀬フェスタに類する集客力のある広報イベント等に対する補助制度を設けます。</p>		